

協 漁 川 渡 広

モクスガニ成長期待

日南市内5河川に放流

日南広渡川漁協（日高春身組合長）は2日、日南市の広渡川や黒荷田川などでモクスガニ約300匹を放流した。組合員5人が手分けして市内5カ所の川に一齐に放流した。このうち、松山貞義さん（74）は同市北郷町の広渡川支



広渡川支流でモクスガニを放流する松山さん（右）

今回放流したのは宮崎市内で捕れた天然もので、稚ガニの甲幅は4センチほど。捕獲できるサイズの約10センチになるまで3、4年かかるという。

流で20匹を放流した。川に放たれたカニは、元氣よく動き回っていた。

モクスガニは奥南の郷土料理「カニまき汁」の材料としても知られている。もともと市内の川には多くのモクスガニが生息。一方で近年は密漁が後を絶たず、収穫量は減少傾向にあるという。

放流は資源保護を目的に同漁協が毎年行っている。日高組合長（85）は「みんなルールを守って捕っている。食べるのを楽しみにしている人も多く、密漁は頭が痛い」と話していた。

日南市の日南広渡川漁協（日高春身組合長）は4日、市内を流れる広渡川、酒谷川の上流にヤマメを放流した。資源の維持のため、15年ほど前から毎年実施。この日放流したのは、椎葉村の養魚場から調達した体長8センチほどの稚魚8500匹。広渡川ではレイクサイド公園上流に5千匹、酒谷川では割岩谷川付近に1500匹、下新村橋付近に2千匹の計8500匹を放

ヤマメ大きく育て

8500匹
日南で放流



日南市北郷町のレイクサイド公園上流でヤマメを放流する日南広渡川漁協の組合員

員と市の担当職員ら10人が参加。川の水温は19度と放流には絶好の日和。酸素欠乏に弱いヤマメの体力維持のため、組合員らは急いでビニール袋とバケツに移し、放流した。稚魚は流れの少ない場所になり川の水に慣れた後、近くの瀬に移動したり、石の下に潜ったり

していた。日高組合長は「市外から多くの溪流釣りファンが集まるところを見ると、放流の成果は着実に上がっているのではないかと話していた。」